

共生社会の実現に向けた認知症施策推進議員連盟

第二回総会 次第

令和4年2月22日16時30分から
衆議院第一議員会館 多目的ホール

1. 開会

2. 会長挨拶 尾辻 秀久 参議院議員

3. 議連人事

4. ヒアリング

- ・ 株式会社 DFC パートナーズ 代表取締役 徳田雄人 様 (会場)
- ・ デイサービス「こぐれ学園」 代表 小暮康弘 様 (オンライン)
- ・ 川崎幸クリニック 院長 杉山孝博 様 (オンライン)

5. 意見交換

6. 閉会

共生社会の実現に向けた認知症施策推進議員連盟 役員表

会長	尾辻秀久（自民党）
会長代行	田村憲久（自民党）
会長代理	泉 健太（立憲民主党） 古屋範子（公明党）
副会長	秋野公造（公明党） 梅村 聡（日本維新の会） 大口善徳（公明党） 金子恭之（自民党） 鈴木宗男（日本維新の会） 西村智奈美（立憲民主党） 橋本 岳（自民党） 福島瑞穂（社民党） 古川元久（国民民主党） 松原 仁（立憲民主党） 宮本 徹（共産党）
幹事長	丸川珠代（自民党）
幹事長代理	稲津 久（公明党） 大河原まさこ（立憲民主党） 倉林明子（共産党） 里見隆治（公明党） 竹谷としこ（公明党） 浜田 聡（NHK 党） 船後靖彦（れいわ新選組）
幹事	伊佐進一（公明党） 伊藤孝江（公明党） 打越さく良（立憲民主党） 遠藤良太（日本維新の会） 尾崎正直（自民党） 勝目 康（自民党） 川田龍平（立憲民主党） 熊野正士（公明党） 源馬謙太郎（立憲民主党） 塩田博昭（公明党） 自見はなこ（自民党） そのだ修光（自民党） 竹内真二（公明党） 西岡秀子（国民民主党） 羽生田 俊（自民党） 福島伸享（無所属） 米山隆一（無所属）
事務局長	鈴木隼人（自民党）

講演要旨

令和4年2月22日

学校形式のデイサービスこぐれ学園 管理者

株式会社介護のこぐれ 代表取締役

小暮康弘

1. 認知症の方がなぜ、大学レベルの授業が楽しめるのか

5年前の3月1日、学校形式のデイサービスこぐれ学園の前身「おとなの学校前橋本町校」が開校しました。当初は「おとなの学校」のフランチャイズ事業で、おとなの学校制作の教科書を使用していました。開校から半年経過したある日、利用者の方から「俺たちをバカにするな!」と思ってもみなかったお叱りの言葉を頂戴しました。この一言で認知症の方に対する先入観が一気に崩壊しました。

おとなの学校もそうですが認知症の方の潜在能力を完全に見誤っていました。おとなの学校制作の教科書は小学校低学年レベルの内容でしたが、その内容に全く違和感がなく、認知症の方の能力をその程度、と考えていました。しかし全くの間違いでした。お叱りを受けるのも当然です。

冷静に考えれば介護施設を利用される高齢者は65歳以上で、実際には80代、90代が大半です。戦中戦後の混乱期を生き抜き、高度経済成長をけん引し、経験と知識と教養豊かな紳士淑女でいらっしゃいます。実はこの豊かな経験と知識と教養が認知症を患っていてもしっかり長期記憶に温存されていたのです。この長期記憶が刺激され、眠っていた豊かな経験と知識と教養が活動を開始しました。そうなりますと小学校低学年レベルの授業に納得するはずありませんし、自尊心を深く傷つけ尊厳を無視した結果が「バカにするな!」です。

2. 介護保険で通える大学へ

認知症の方というよりも豊かな経験と知識と教養ある高齢者に相応しい授業にするためにおとなの学校制作の教科書の使用をやめ、オリジナル教科書の作成に取り掛かりました。教材は新聞の社説やコラム、『源氏物語』等の古典、歴史書や郷土史の文献です。そうです、健常者である大人が手に取って読み、楽しめ興味を示す内容であり、古典作品を原文で読むとなれば、文系の大学レベルです。

しかし限られた介護スタッフではカリキュラム構成が偏り、まして20代、30代の若い介護スタッフでは、豊かな経験と知識と教養ある高齢者が満足するような講義はそもそも無理です。そこで専門の講師を介護員として募集することにしました。その労働条件が週一回、一コマ(1時間)のみ、ただし時給は2,000円という誰も応募しないだろう、という劣悪な条件です。ダメもとで求人を出しましたが、掲載翌日に十数人の応募があり、ほぼ全員を採用して即日募集を締め切りました。その結果カリキュラムが充実し、音楽は週4日、毎回先生が違います。書道と美術のどちらかが毎週あり、英米文学は大学の名誉教授が担当します。英語や古典、自然科学や物理もあります。極めつけは数学です。数学の先生ご自身が

認知症を患っていますが、高校で40年以上教壇に立ち続けた昔取った杵柄そのまま、長期記憶が動き出し、堂々とした講義は現役そのもので認知症の片鱗もありません。

3. 認知症の克服

認知症は現在、有効な治療方法がなく、ある意味で家族生活も一変させかねない癌よりも恐ろしい不治の病と言えるかも知れません。しかし救いは、その症状が短期記憶障害に顕著に出て、長期記憶までは侵されないということです。認知症の進行により食べる意欲を失い、排便排尿の自覚がなくなり、生きる意欲があるのかもわからない深刻な症状に到りますが、だからと言って長期記憶が消え失せるわけではありません。長期記憶はしっかり残っていても呼び覚ますきっかけのないのが実際です。

学校形式のデイサービスはこの長期記憶を刺激することによって成立しています。そもそも学校の記憶は誰にでもある記憶であり、高齢者にとっては長期記憶そのものです。大きな黒板とピアノのあるフロアは教室の作りになっています。教室に一歩足を踏み入れると学校という長期記憶が刺激され、脳が活動を始めます。認知症特有の無表情が消え、豊かな表情と笑顔に一変します。誰が見ても認知症を患っているように見えません。

極端な事例ですが、55歳で認知症を発症し、65歳で当学園の利用を開始した男性がいます。若年性認知症で10年間、ご本人とご家族が苦しみました。その日は正式利用ではなく、体験初日でした。学園に到着。スタッフと普通にあいさつを交わし、食事も全て召し上がっていただきました。しかし認知症の障害で、水洗トイレの使い方が分からない、食後の歯磨きでも歯ブラシの意味が分からないほどですからやはり重度の認知症でいらっしゃいます。その際は当然介助が必要ですが、それ以外は徘徊することもなく、授業を熱心に受けて、理解できたところがあるのでしょう、笑顔で頷きます。休み時間は他の利用者の会話に耳を傾け、相槌を打ちながら、「えっ」とか「そう」とかの言葉だけですが、会話に加わろうとされます。

重度の認知症でありながら他の利用者同様に1日を過ごし、ご自宅に送り届けるとすぐに奥様が玄関から飛び出してきました。ご本人は奥様に「ただいま」と笑顔で声を掛けます。すると奥様が急に涙ぐみ、この10年間、笑顔を見せたことがなく、会話を交わすことも、まして笑顔で会話を交わせたことに涙が出るほどうれしかった、とおっしゃいました。聞けば食欲もなくなりつつあり、家でゴロゴロしてばかりなので背中に褥瘡までできかけている、ということです。学校という空間が長期記憶を刺激し、食欲が回復、1カ月もするとトイレもお一人で利用できるようになりました。しかし水の流し方がわからず、座って用を足すこともできないため手は少々かかりますが1カ月前とは雲泥の差です。

認知症の方の症状は、短期記憶障害に顕著ですからご自宅に帰られると学園での出来事を忘れてしまいます。ご家族が様子を聞いても当然答えられません。それでも1日、長期記憶の刺激により脳が活発に活動することによって認知症の進行を遅らせているように思われます。短期記憶障害にだけご家族も理解を示していただければ日常生活に支障はありませんから、住み慣れたご自宅での生活をより長く続けることができます。

◎デイサービスこぐれ学園は、学校形式の 地域密着型デイサービスです。



学校での日常を思い起こしてください。
そこには規則正しい生活があります。
介護を必要とされる方、そして認知症の方に必要なのは
規則正しく「人」として尊重されている生活を送ることです。

授業 (国文学・日本史・郷土史・地理・古典・現代文学・音楽・体育・課外活動)

"朝礼に始まり終礼まで、1限から5限まで一コマ30分の授業が5回あります。
授業の合間には30分の休み時間をはさみ、授業の緊張と休み時間のリラックス
を交互に繰り返すことで生活にメリハリをつけていただきます。"

学校行事 (毎日朝礼時にラジオ体操・唱歌斉唱・回想法の実施)

- ・4月入学式 (年間いつでも初回登校時に開催) ・お花見・5月 節句
- ・6月紫陽花鑑賞会・7月七夕会・8月納涼祭・9月運動会・10月ハロウィン
- ・11月学園祭・12月クリスマス会・1月初詣・2月節分・3月卒業式
- ・誕生日会 (毎月開催)

当校は昼食 (給食) 付きとなっております。季節に合わせた多彩なメニューを
毎日ご用意しております。3時には季節のお茶菓子も提供させて頂いております。

送迎	入浴
当校は学園までの送迎に対応しております。 助手席回転スライドシート付きの車両です でお体に負担を掛けることなく安全に乗り降り できます。車椅子送迎対応しております。 また最新の医療ウォーターベットを完備して おり、どなたでも自由にお使い頂けます。 静養室もありますので、授業の合間に横にな ってお休み頂けます。	当校は入浴サービスに対応しています。 最新の自動浴槽を導入しており、お体に 負担をかけることなく入浴できます。 完全個室にてプライバシーも保護されて おります。入浴の際は、当校スタッフが マンツーマンで付き添いますので、安全 性も確保しています。同性介助にも対応 しております。

ご利用案内 (1日) 7~8H

・要介護1：735円 2：868円 3：1006円 4：1144円 5：1281円

総合事業対応 昼食料金：700円 (おやつ込)

入浴介助加算 処遇改善加算Ⅰ 事業所番号1090100601

問い合わせ：027-226-6533 担当：佐藤

HP：<http://hp.kaipoke.biz/3t0/>

KAIGONO-KOGURE CORPORATION



介護保険で通える大学
学校形式のデイサービス

こぐれ学園

KOGURE-GAKUEN

・開校 月曜日～金曜日 9:30～16:30

・TEL 027-226-6533 ・FAX 027-226-6534

・〒371-0023 群馬県前橋市本町2-9-12

AREA: MAEBASI◎ KAIGO.HOKEN: ◎ BATH: ◎

WATERBED: ◎ LUNCH: ◎ CAPACITY: 10

2022 年 2 月 22 日

「認知症医療・介護の実態と在るべき姿」 発言要旨

公益社団法人認知症の人と家族の会副代表

川崎幸クリニック院長 杉山 孝博

私が認知症の人と家族の会にかかわって 41 年が経過しました。認知症に対する理解も支援も皆無であった 41 年前と較べると、現在は認知症の人および家族を取り巻く支援の輪は格段に充実してきました。

その背景として、①認知症の人と家族の会などの当事者たちが実践を通して地道に社会にアピールしてきたこと ②介護保険などのフォーマルな福祉サービスの充実や認知症サポーター養成などの社会的啓蒙活動の広がり ③「痴呆」から「認知症」に代わって受け入れやすくなったこと ④認知症治療薬の開発などを契機として医療の対象として認識されたこと、また認知症を診療する医療機関が各段に増えたこと ⑤国も「新オレンジプラン」「認知症施策推進大綱」など認知症に対する積極的な取り組みを開始したこと ⑥そして何よりも認知症高齢者数 700 万人と言われるように、すべての人々が認知症を身近な問題としてとらえるようになったこと などをあげることができます。

にもかかわらず、認知症介護の大変さ・深刻さは、介護家族だけでなく、保健・医療・介護の専門職からも、行政職からも、地域住民からもいたるところで、マグマのように沸々と湧き上がっていると言えるかもしれません。

その理由を考えると、①認知症の症状の理解が難しいこと（身体的な症状であれば経験的に理解できるが認知症の症状の理解はむずかしい） ②暴言・暴力・不穏・物盗られ妄想などの BPSD への対応が困難であり、しかも医療・介護サービスの利用を断られること ③認知症の症状に対する医療的対応がほとんど有効でないこと ④発症から終末期まで介護の期間が長いこと ⑤一人暮らし、老々介護、認認介護、ヤングケアラーなど介護状況の厳しい現実 ⑥多彩で、次々に変化する認知症の症状に対する適切な介護方法が確立していないこと ⑦医療と介護の問題に限らず、就労、経済的問題、遺伝、子供の養育・結婚、介護サービスの量的・質的不足などさまざまな問題をもっている若年性認知症の取り組みが不十分であること ⑧認知症の人が生活する地域においてその理解や寛容性がまだ脆弱であること などでしょうか。

今後の課題とあるべき姿について、

第一は、認知症の正しい理解を深め偏見を除去すること

第二は、認知症の人が住み慣れた地域で安心して家庭生活や社会参加ができ、家族に負担がかからないような適切な医療や福祉サービスが利用できるための環境整備

第三は、「がん基本法」のような、認知症に関するバックボーンとしての「認知症基本法」を制定して、施策や医療・福祉・社会活動にはっきりした方向性を示すこと

が重要であると、私は考えています。